

<p>第64号 令和4年3月1日</p>	<h1>みちびき</h1> <p>【関市少年センターだより】</p>	<p>発行 関市協働推進部 生涯学習課 関市少年センター 電話〈0575〉23-7777</p>
--------------------------	------------------------------------	--

令和3年度優良少年補導員 7名が受賞

令和3年度「岐阜県青少年育成県民大会」は、11月21日（日）に瑞穂市総合センターで開催されました。この大会は、青少年の健全育成、社会環境浄化及び非行防止について広く県民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会が一体となって、地域ぐるみの実践活動をより一層推進し、その定着を図るという趣旨で開催されています。

当日は、県内の青少年指導者や少年（補導）センター関係者、少年補導員など260名が参加されました。

表彰式では、県内の青少年健全育成などに功績のあった優良少年補導員48名の表彰が行われ、関市からは次の7名の方が受賞されました。（敬称略）

◎ 県民会議会長表彰（7名）

川嶋 敦（田原支部）	石神 智秀（田原支部）	山田 孝司（下有知支部）
古田 龍治（下有知支部）	岡田 英賢（西部支部）	楠 恵美子（南ヶ丘支部）
長屋 正幸（板取支部）		

受賞されました7名の皆様には、誠におめでとうございました。今後も引き続き青少年育成、非行防止等、補導活動にご協力くださるようお願いします。



子どものスマホにはフィルタリングを！

～お子さんは大丈夫ですか？ インターネットにまつわるトラブルを防ぐために～



フィルタリングサービスは、インターネットのサイト等を閲覧したりアプリを使用する際に、子どもを有害・違法なサイトやアプリの危険から守ることができる仕組みです。

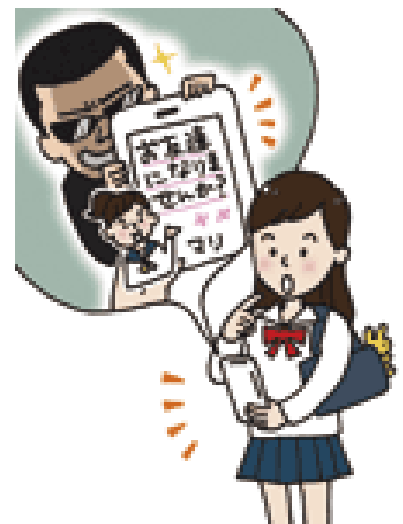
十分な判断力を持っていると思われる大人でも、詐欺サイトによる被害や、悪質なアプリによる個人情報流出などの事件は年々増えています。

インターネットを検索していると、さまざまなサイトと繋がります。好きなアイドルの情報を調べようと検索結果をたどっていくうちに、知らぬ間に詐欺的なサイトを閲覧してしまい、法外な料金を請求された例や、無料のアプリをダウンロードして使っていたら、個人情報が流出した例など、「うちの子は大丈夫」だと思っけていても危険なサイトに立ち入ってしまう場合があります。

携帯やスマホを18歳未満のお子さんが購入する際は、保護者が必ずフィルタリングを契約するよう法律で義務付けられています。しかし使用しているうちに、「調べ学習ができない。」などの理由で、フィルタリングを外してほしいと保護者に頼み込むお子さんも多いそうです。

調べ学習などで必要になるサイトは、規制対象になるものはそれほど多くありません。学習の妨げになることを心配するあまりフィルタリングを外してしまい、無防備な状態でインターネットにアクセスさせることには、常に危険が伴っていることをご理解ください。

お子さんのインターネット利用を管理するのは保護者の義務です。お子さんのインターネットスキルやご家庭での考え方に合わせてルールを作ってください。フィルタリングの詳しい使い方については、お使いの携帯電話会社のサービスページをご覧ください。販売店にご相談ください。



「こんなクズ、産むんじゃなかった」 息子を全否定する母親に対して・・・

スマホゲームばかりやっている息子に嫌悪感を抱く母親が、息子との接し方について新聞の相談コーナーに話を打ち掛けました。

◎相談者

40代の会社員女性。シングルマザーです。中学3年の息子がどうしてもなくて嫌になります。高校3年の娘は大学受験に向け、親の私が驚くほど熱心に勉強しています。それに対し息子は部活をやめさせられて以来、スマホのゲームばかりしています。同居する私の両親が息子のことで私に小言を言い、私は怒りを10倍にして息子にぶつけ、ケンカになる。いつも、この繰り返しです。

将来、こんな調子で定職に就かず、家でごろつかれても困ります。息子を私の人生から抹消したいとさえ考えます。本人にも「こんなクズ、産むんじゃなかった」と言います。

一時は、息子の人生は息子が決める、私は明るくしてさえいけばいいと、自分に言い聞かせていました。でも、こんな日々がいつまで続くのかと思うと、今、更生させるべきなのかと悩みます。

相談者は「私の育て方は間違っていない、私は被害者だ」と言わんばかりのスタンスで相談を持ち掛けています。しかし、先生はそんな母親に対して次のように回答しました。

◎先生の回答

子どもは必ずしも、親の思い通りに育たないものです。さりとて自分の人生から息子さんを抹消したいとは尋常ではありません。「こんなクズ、産むんじゃなかった」とまで母親から言われて、よく息子さんは耐えていると思います。

お手紙には、部活をやめさせられたと書かれています。事情がよくわかりませんが、高校受験か何かを理由に、息子さんの意思とは無関係にやめさせられたのでしょうか？そうでしたら、気持ちの整理がつかないのは当然です。

しかも家の中では、対照的に優等生のお姉さんが輝いていて、自分をめぐって祖父母の小言が飛び交い、母親からは存在を全否定されているのです。唯一の逃げ場がスマホのゲームになっているのだと思います。あなたはすでに息子さんを精神的に抹消しているのと同然です。

まず息子さんへの接し方について素直にあやまってください。今、何を考えているのか、何をしたいのか、じっくり聴いてください。娘さんと比べることはやめて、息子さんの良いところを探してください。

この先、引きこもったり暴力を振るったりするほど追いつめないために、即刻あなたの心と態度を改めるべきです。



母親は、出来の良いお姉ちゃんに対し弟は出来が悪く「こんなクズ産むんじゃなかった」と言ってしまふ始末。「追い込まれた私を助けて!」と言わんばかりの母親に対し、回答をした先生の言葉があまりにも正論で清々しいと感じました。

相談者である母親は、「自分は間違っていない。悪いのは子ども」と信じています。お母さんが息子に対して思う気持ちは間違っていないと思いますが、姉弟で比べることや唯一の逃げ道であるゲーム、息子自体を全否定したことに対してしっかりと謝ることを先生はアドバイスしています。

もしかしたら私たちも、長い子育ての中で大なり小なり似たようなことをしてしまっている時があるかもしれません。今一度子どもとの向き合い方を考えてみましょう。「私もこんな風に子どもに接していないかな?」「兄弟姉妹と比べたり、子どもの気持ちを無視していないだろうか?」

どんな子どもでも、「自分が親から愛されている。大切に思われている。」と思えるのであれば、自分を愛し、他人を愛せる人間に成長するものだと確信しています。